

第 492 回情報化研究会報告

この日は聴視者が 16 名と多くなり、大阪や岡山県等遠方からの参加がありオンラインならではの参加状況でした。講師は、製薬会社に勤められていて、生物工学部門の細胞遺伝子工学を専門にされ、医療ビッグデータの利活用等を経験されていて、情報検索の仕事をされておられるので先進的な演題にふさわしく、期待が集まったと思われます。

データ数の効果の例として、原始人類のネアンデルタール人とホモサピエンスの時代に前者が絶滅して後者が進化したのは、前者が家族規模の集団だったのに対して後者は 100 人以上の社会を構成していて集合知で優っていたとのことでした。

機械翻訳の歴史として、学習データの増加の歴史と手間とコストが壁になっている状況、また AI の判断根拠が理解できない問題がある。これを乗り越える新しい方式が研究されているとのこと。

AI の歴史で、自然言語をコンピュータに理解させるのに、単語のとらえ方によるいくつかの方法について特長、問題点が説明された。

実用例として、IBM の Watson が多くの分野で成果を上げていることの説明があった。論文検索、データ分析、ニュース配信、リアルタイム翻訳等々。

AI の将来は、人間の知より広い範囲の知から新たなことを見つける可能性があり、未来を切り開いていくことになるろう、とのことでした。

終了時、視聴者の感想をチャットに求めたところ、6 名から、期待通りだった、大変参考になった、満足している、等の良好なコメントをいただきました。
